

経営規模の拡大に対応した スイカ新技術「渦巻き整枝法」

今後のスイカの経営規模拡大に対応するため、山形県農業総合研究センター園芸農業研究所では、山形県のスイカ主産地である北村山地域で普及している整枝法のうち、トンネル移動栽培（つる引き整枝）の収量性・果実品質と、裾換気放任栽培（通称：密閉栽培）の省力性を合わせ持つ、新整枝技術「渦巻き整枝法」を開発しましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 渦巻き整枝法は、親づるを摘心後発生する側枝（子づる、孫づる）を、緩やかな渦巻き状に誘引する整枝法です（図1、2）。
2. 渦巻き整枝法は、従来のトンネル移動栽培と比較して一果重はやや小さくなりますが、10a当たり商品果収量は約2割増加し、糖度も同等です。
3. 渦巻き整枝法は、従来のトンネル移動栽培と比較して、労働時間を2割程度削減できるため、8時間当たり所得は、約6割増の3万6千円が期待できます。

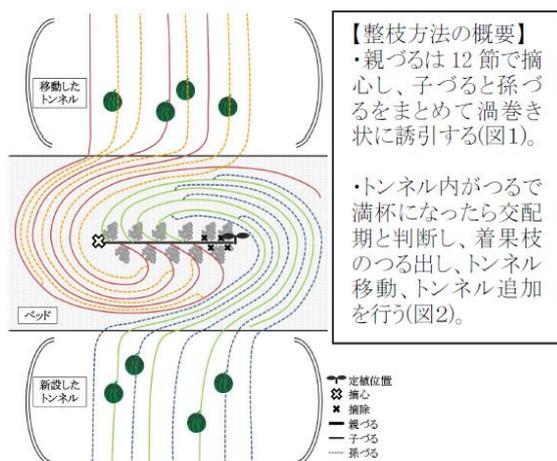


図1 渦巻き整枝の模式図



図2 交配直前の状況（赤印：試験区ラベル）

☆ 活用面での留意点

1. 渦巻き整枝は、トンネル移動栽培と比較して、一果重は約2割程度小さくなります。
2. 渦巻き整枝の詳しい整枝法、収量性および果実品質については、令和元年度 新しい技術の試験研究成果「すいか新技術「渦巻き整枝法」による省力性および収益性」を参照してください。
3. 詳しいことは、山形県農業総合研究センター 園芸農業研究所 野菜花き部（TEL：0237-84-4162）まで、お問い合わせ下さい。